

市民・にぎわいスポーツ文化・消防委員会
令和 7 年 1 2 月 1 2 日
にぎわいスポーツ文化局

横浜市中期計画2026-2029（素案）

＜にぎわいスポーツ文化局 抜き刷り版＞



目次

Ⅳ 政策・施策

1 14の政策群と33の施策群

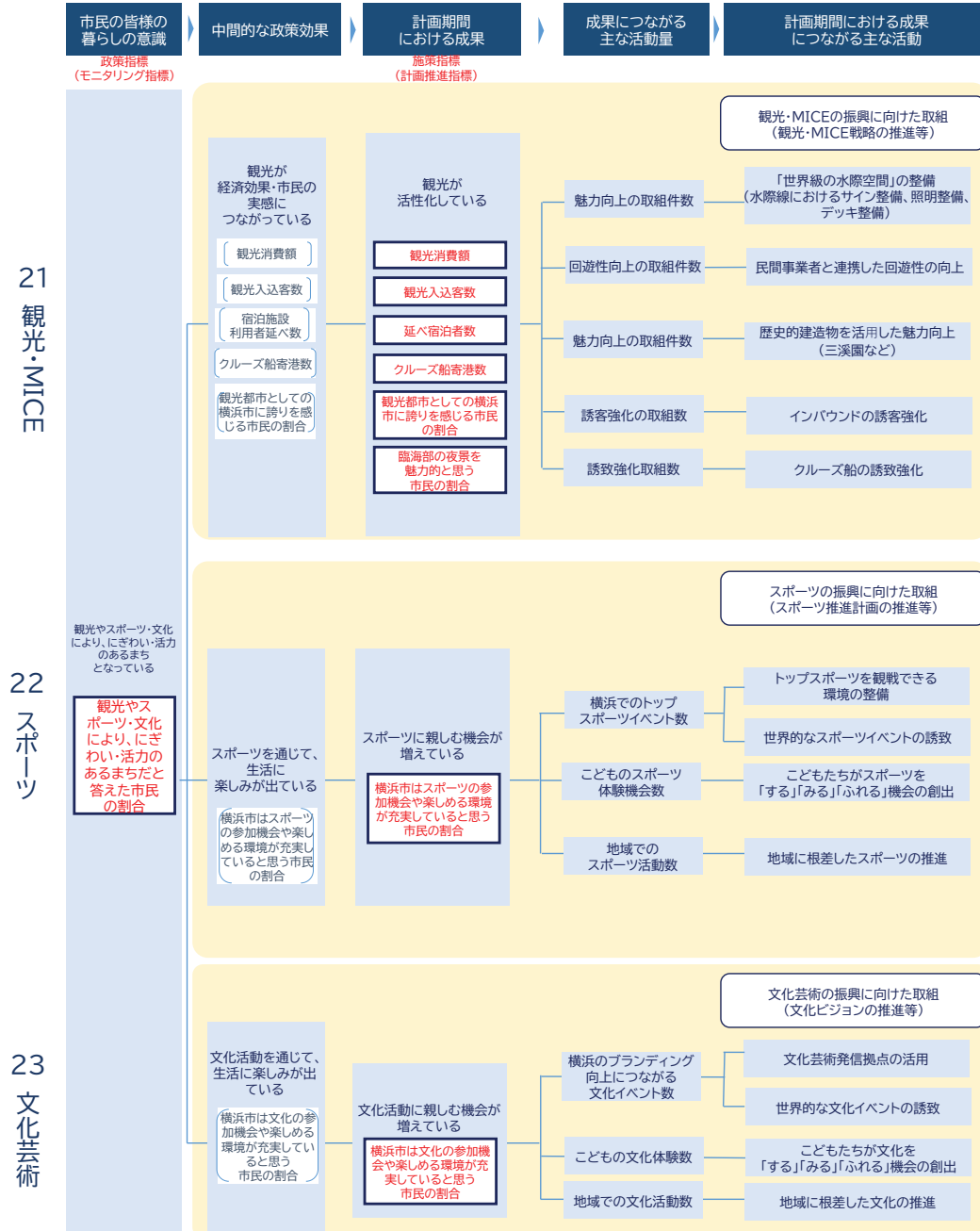
政策群10 にぎわい・スポーツ・文化 7（冊子45）頁

2 明日をひらく都市プロジェクト

02 観光・経済活性化 11（冊子77）頁

1 14の政策群と33の施策群

政策－施策体系図（政策群：にぎわい・スポーツ・文化）



※ 中間的な政策効果は、市民の皆様の暮らしの意識を表す指標の向上に向けた経路の思考・確認の一例を掲載
本計画に記載以外の中間的な政策効果も含め、個別分野別計画の取組と連動させ、状態を確認・検証しながら柔軟に実践
※ 取組に記載している個別分野別計画はR7.12時点

10 にぎわい・スポーツ・文化



現状と課題 - 横浜を取り巻く状況と課題 -

○更なるにぎわいづくり

- ・2024（令和6）年の横浜市の観光消費額及び観光入込客数は、回遊促進等のこれまでの取組により過去最高となりましたが、平均消費額の高い宿泊客が日帰り客に比べ少ないこと、また日帰り客の平均消費額が伸びていないことが課題です。経済の活性化に向け、観光入込客数と平均消費額を増加させ、観光消費額を伸ばしていくことが重要です。
- ・都心臨海部を中心とした観光資源の魅力の向上やクルーズ船の発着が多い特長を生かすことにより、市民の皆様により楽しんでいただくことはもとより、インバウンドを含め国内外の更なる誘客を促進し、宿泊の促進や滞在時間の延長を図っていくことが重要です。
- ・また、郊外部においても、住民の愛着を育む地域毎のにぎわいづくりや、新たな活性化拠点の形成など、エリアの特性に応じたにぎわいを生み出していくことが重要です。

○スポーツを「する」「みる」「ささえる」「ふれる」機会

- ・横浜市民スポーツ意識調査によると、必要性を感じ、関心や意欲がありながらも「する」「みる」「ささえる」スポーツ活動に十分に組み合っていない市民が多く、スポーツに「ふれる」機会も課題です。また、共生社会の実現に向け、年齢や性別、障害の有無等に関わらず、誰もがスポーツに親しめる環境の整備が重要です。

○文化活動環境

- ・文化団体等の多くの担い手やネットワークにより文化活動が多様化すると共に、市内文化施設において地域の催しが盛んに行われていますが、より広い市民を対象として各地域で活動に取り組める環境づくりを推進していくことが重要です。次世代育成や共生社会の実現に向けて、年齢や性別、障害の有無等に関わらず、誰もが文化芸術に触れることのできる環境づくりが重要です。

目指す姿 - 4年後、そして、更に将来にわたって目指すべき姿 -

- ・ウォーターフロントを生かしたアーバンリゾートの魅力向上により、国内外から観光客を呼び込み、消費の拡大により地域経済が活性化され、活力・魅力のあるまちとなっています。
- ・年齢や性別、障害の有無、家庭環境等に関わらず、市内の各地域で隔たりなく、誰もが、スポーツや文化活動に参加できる機会や楽しめる環境が充実し、また、それらを通じて共に認め、支えあうコミュニティが実現することで、市民が生活の質の向上を実感できています。

政策指標 - 市民の皆様の横浜市での暮らしの意識を表す指標 -

観光やスポーツ・文化により、
にぎわい・活力のあるまち
だと思いますか

調査中（原案で掲載予定）



観光・MICEの振興に向けた取組、スポーツの振興に向けた取組、文化芸術の振興に向けた取組に関する個別分野別計画等

横浜市観光・MICE戦略

横浜市スポーツ推進計画

横浜未来の文化ビジョン



【関連するSDGsの取組】



施策群

施策指標 2029（令和11）年度に向けて進捗管理し、成果発揮を目指す指標 - を設定

21 観光・MICE

方向性

世界を魅了する国際観光都市の実現に向け、戦略的な誘客プロモーションやMICE誘致、都心臨海部を中心とした、夜景を含めた水際線の魅力向上等を通じた戦略的な回遊性向上やクルーズ船の誘致などにより、宿泊の促進や滞在時間の延長を図るなど、にぎわい創出や観光・MICEを推進することで、市内経済を活性化させると共に、まちの活力・魅力を一層高めます。

指標

観光消費額	【にぎわいスポーツ文化局】	現状 4,564億円 (R6時点)	目標 5,500億円	クルーズ船寄港数 ※	【港湾局】	現状 147回 (R6時点)	目標 220回
観光入込客数	【にぎわいスポーツ文化局】	現状 3,773万人 (R6時点)	目標 4,000万人	観光都市としての横浜に誇りを 感じる市民の割合	※ 【にぎわいスポーツ文化局】	現状 調査中	目標 - %
延べ宿泊者数	【にぎわいスポーツ文化局】	現状 980万人泊 (R6時点)	目標 1,100万人泊	臨海部の夜景を魅力的と 思う市民の割合	※ 【にぎわいスポーツ文化局】	現状 調査中	目標 - %

22 スポーツ

方向性

心豊かな市民生活の実現を図るため、スポーツを身近に感じられるまちの実現を目指し、年齢や性別、障害の有無、家庭環境等に関わらず、こどもたちをはじめとした誰もがスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことや、それらのきっかけとなる「ふれる」機会を創出すると共に、地域に根ざしたスポーツの振興や大規模スポーツイベントの誘致開催等、市民の多様なスポーツ環境の充実に取り組みます。

指標

横浜市はスポーツの参加機会や楽しめる環境が充実していると思う市民の割合 ※	【にぎわいスポーツ文化局】	現状 調査中	目標 - %
---------------------------------------	---------------	--------	--------

23 文化芸術

方向性

心豊かな市民生活の実現を図るため、横浜の強みを生かした横浜文化の創造を目指し、年齢や性別、障害の有無、家庭環境等に関わらず、こどもたちをはじめとした誰もが文化活動に取り組める環境の整備、市全域における身近な地域での文化を通じた地域コミュニティの形成、様々な主体との連携による創造性を生かしたまちづくり等によるにぎわいづくりを進めます。

指標

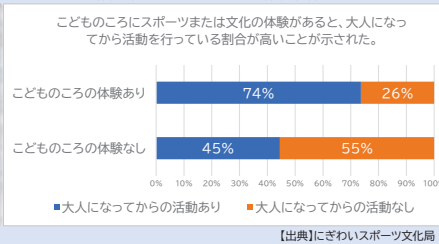
横浜市は文化の参加機会や楽しめる環境が充実していると思う市民の割合 ※	【にぎわいスポーツ文化局】	現状 調査中	目標 - %
-------------------------------------	---------------	--------	--------

【関連データ等】

●「観光入込客数（実人数）」及び「観光消費額」の推移



●こどもの頃の体験の有無と大人になってからの活動の割合



横浜の持続的な成長・発展に向けて

「政策・施策」の体系のもと、個別分野別計画等の推進も含め、政策群に位置づける今後4年間で重点的に進める総合的な取組を市民目線で推進することはもちろん、先人たちが築き、維持・継承してきた都市基盤や経済環境、みどり・農・海等豊かな自然環境など、横浜のポテンシャルや魅力をより高め、横浜の更なる持続的な成長・発展につながるテーマについて、「明日をひらく都市プロジェクト」として、3つのテーマで施策横断的に取り組みます。

「明日をひらく都市プロジェクト」は、本計画期間である4年後の目指す姿はもちろんのこと、2040（令和22）年の横浜の姿も目標に掲げ、民間活力を積極的に誘引しつつ、国等との連携も強化しながら、戦略的に取り組んでいきます。

2 明日をひらく都市プロジェクト

3つのテーマ

1

循環型都市への移行

～生産・消費・再資源化のあらゆるステージで循環型都市を目指す「YOKOHAMA CIRCULAR LINK」～

2

観光・経済活性化

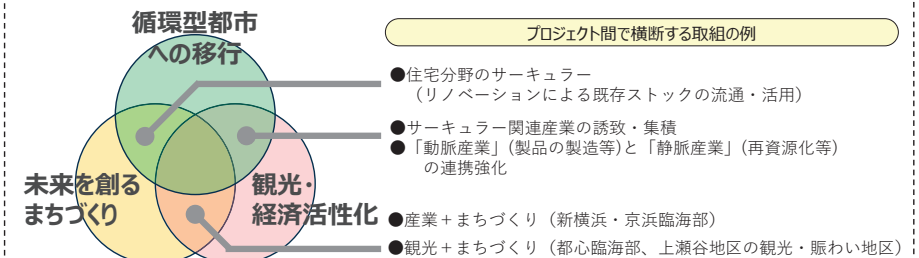
～にぎわいが経済を育み、世界とつながる横浜へ～

3

未来を創るまちづくり

～日々の暮らしを豊かにし、都市の経済を成長させ、活力あふれる横浜へ～

「循環型都市」「観光・経済」「まちづくり」は、それぞれ密接に連携した政策分野であることから、一部の具体的な取組は、複数のプロジェクトに重複して記載しています。様々な政策効果を発揮させつつ、3つのプロジェクトを相互に関連づけながら、効果的・横断的に推進していきます。



02 | 観光・経済活性化

サーキュラーエコノミーやAI・半導体等、最先端技術の進展などの世界潮流を見据えると共に、世界に誇れる水際線や三溪園をはじめとした、観光都市・横浜を代表する資源を生かして、横浜市の観光・経済における強み・ポテンシャルを最大化すると共に、未来に向けた産業創出に取り組み、経済の持続的な成長・発展につなげます。

さらに、積極的に海外活力の取り込み、横浜ブランドの海外への発信を進め、国内外から人や企業が集まる、グローバル都市横浜を目指します。

現状及び将来見通し

観光都市に向けて

- 海や港などの開放的な環境に加え、商業施設や「楽しみながら学べる」集客施設の集積、また公民が一体となったイベント戦略等により、観光消費額、観光入込客数は2024（令和6）年に過去最高を達成しました。
- 今後は、平均立寄り箇所数の更なる増加や、延べ宿泊者数のインバウンド割合の上昇に向けて、**回遊の促進や、商業・宿泊施設等の受入れ環境の充実**、また情報発信の強化が重要です。
- 更に、観光政策を「来訪者数の増加」で終わらず、都市としての価値の向上や、市内経済の成長につなげていくことが重要です。



産業の持続的な成長

- 企業集積を支えてきたみなとみらい地区は98.6%まで開発が進み、今後は市内各エリアでの企業誘致が重要です。特に既存の産業用地は高度経済成長期のインフラや法令規制により柔軟な土地利用転換が難しく、まちづくりと一体となった産業集積や魅力的な就業環境の形成が課題です。
- 生成AIの急速な普及や循環型社会移行への要請など、市内経済を取り巻く情勢変化は激しく、個別企業だけでは対応は困難です。横浜市が世界の潮流を捉え、国の成長戦略とも連動させながら、マッチングや投資インセンティブを通じて**企業の変革を後押しし、横浜ならではのイノベーション創出を促進**することが重要です。



グローバル都市横浜

- 横浜の魅力として「国際的な雰囲気がある」と考える市民の割合は24%(2024（令和6）年）。「市民が世界に誇れる都市」を目指す上で、**都市の魅力**を更に高め、**発信**していくことが重要です。
- 国際会議等の場で発信してきたグリーン分野の取組について国際機関等から評価が高まる中、国際的なリーダーシップを一層発揮して**プレゼンス向上**を図る好機です。
- 人口減少社会においては、**海外活力の取り込みも重要**です。企業・人材等から選ばれるため、グローバルネットワークの拡大や効果的な海外プロモーションが課題です。



方向性

観光の発展は、横浜市の経済成長に資する取組であり、また国内に加えて海外からの誘客が重要な要素です。さらに、サーキュラーエコノミーなどを通じた環境共生と経済成長の両立への挑戦は、グローバルな都市課題の解決につながり、横浜の国際的リーダーシップを発揮する取組です。

このように、「観光発展」「経済成長」「グローバル都市の推進」は一体的に取り組むことが重要であり、3つの取組の連動を通じて、都市の魅力・活力と国際プレゼンスの向上を図ります。

観光発展

- 世界に誇れる**更なるにぎわい形成の舞台となる水際線や三溪園**など、観光資源の磨き上げと、インバウンドを狙った誘客の仕掛け
- イベント主催者や観光事業者等と連携した**夜まで楽しめ、朝から楽しめる観光まちづくり**と、**宿泊施設の立地促進**
- **都心部と郊外部のにぎわい拠点の相乗効果**

経済成長

- 都市の国際プレゼンスや企業の競争力を高める、**サーキュラーエコノミーやAI・半導体**などの**成長産業を創出・育成**
- 多様な働き方や企業活動を支える**次世代の産業拠点を形成するまちづくり**

グローバル都市の推進

- 国際的リーダーシップの発揮等を通じた**グローバル都市ブランディング**
- 国際的影響力のある機関・企業等、**海外活力の取り込み**
- 異文化コミュニケーション力の育成等、**グローバル人材の育成**

[観光発展] + [経済成長] + [グローバル都市の推進]
3つの取組を連動して進め、市民が世界に誇れる都市へ

2029（令和11）年の横浜の姿（観光・経済）

◆取組全体

- 水際線や三溪園をはじめとした**横浜の魅力ある都市資産を生かした更なる観光の発展**や、世界潮流や国の成長戦略も踏まえたサーキュラーエコノミーやAI・半導体分野などの**産業の育成**が進んでいます。
- そうした**都市の魅力が国際的にも認知**されると共に、若者をはじめとした横浜市民が、**世界をより身近に感じ、世界とつながり、「市民が世界に誇れる都市」となっています。**

◆個別取組（施策群の指標：抜粋）

・観光消費額	【現状】4,564億円 → 5,500億円
・観光入込客数	【現状】3,773万人 → 4,000万人
・延べ宿泊者数	【現状】980万人泊 → 1,100万人泊
・新規産業投資件数 (サーキュラーエコノミー・AI関連)	【現状】4件 → 24件

2040（令和22）年の横浜の姿（観光・経済）

都心部でも郊外部でも、**多くの市民や国内外の来街者を惹きつける拠点を形成**し、更なるにぎわいが生まれています。
(観光消費額7,000億円)
※2024（令和6）年約4,564億円

サーキュラーエコノミーやAI・半導体関連産業が**横浜の新たな成長産業の一つ**となり、人口減少時代においても市域全体が経済成長を続けています。
(市内総生産額の向上)
※2022（令和4）年度推計約14.8兆円

世界目線の政策を実行するグローバル都市としての世界的認知を獲得しています。

観光発展 ～更なるにぎわいの形成から、横浜経済の成長へ～

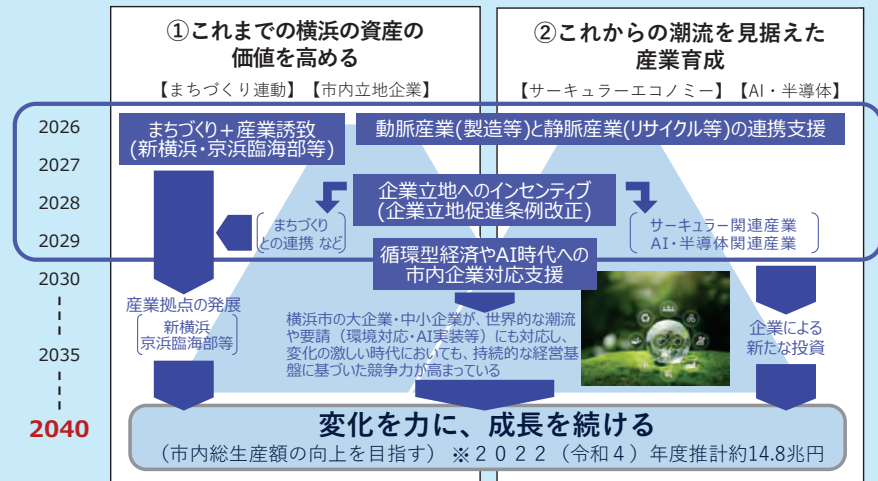
GREEN×EXPO 2027の開催を契機として、国内外における観光都市としてのプレゼンス向上のため、都心部の魅力の磨き上げや受入れ環境の整備を進めると共に、戦略的なプロモーションにより、市内や国内に加え、インバウンドを含めた誘客につなげます。また、郊外部の新たな観光・集客拠点の形成を見据え、両エリアの相乗効果を図る施策により、更なるにぎわいを形成し、市内経済の活性化につなげていきます。



観光発展
経済成長
への寄与

経済成長 ～持続可能な地域経済の発展～

世界共通の課題解決に資するサービス等の提供を通じて、更なる経済の成長を目指す国の成長戦略と共に、これからの世界潮流を見据えた産業育成を進め、横浜市の持続的な経済成長につなげていきます。



グローバル都市の推進に向けた戦略※ ～市民が世界に誇れる都市へ～

グローバル化や少子高齢化が進展する中、国際平和に貢献しながら都市の持続可能性を高めるため、あらゆる政策を世界目線で捉え直し、横浜のブランド力や活力の向上につなげます。

アジアでの循環型都市を先導するなど、国際的なリーダーシップを発揮することで、国際プレゼンスの向上、グローバル人材の育成、海外活力の取り込みなど好循環を生み出し、シビックプライドの醸成につなげていきます。

※ この戦略を、「横浜市国際戦略(令和3年2月改定)」を継ぐものとして位置づけます。

